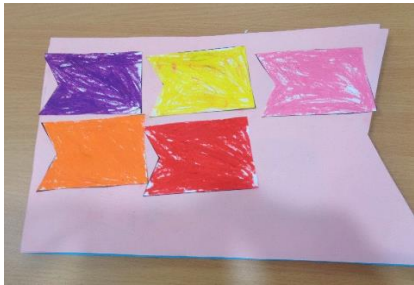


どんなふうになつてるかな



もうすぐ こどものひ。

おおきいくらすの みんなは

うろこや こいのぼりのからだを くれぱすで いろぬり！

しゃしんの うえのほうか みのりさん したのほうか

おはなさんや つぼみさん のぬったものです。

うろこを いちまいずつ いろわけしたり、すきないろを

えらんだり。かわいい こいのぼりが ぞくぞくと とうじょう

していますよ！ わくのなか

かみのはしからはしまで など ちからをこめて しっかり
ぬりこまれているのが わかります。

あおばぐみでは すこしまえにたのしんでいた

えのぐをつかった ゆびでのいろぬり

(ふいんがーぺいんていんぐ) をたのしんだものが

おおきな こいのぼりの うろこになっています。



こどもたちはこいのぼりを作ることを楽しんでいる活動ですが、保育者は子どもたちが楽しみながらも、“クレパスを持つ手や指にしっかり力を込めることができるようになってきているかな”、“枠の中に塗るというルールがあるときにはどんなふう塗るのかな”、“はみ出してしまったらどうするのか”など、ただ塗れるだけではない、子どもたちのどんな力が育っているかを見えています。特に幼児期は体験から様々なことを学び取り、成長していく時期です。ときにはこども園ではただ描く、作品としての完成度に着目するのではなく、その中での様々な子どもの育ちを大切にしていきたいと考えています。